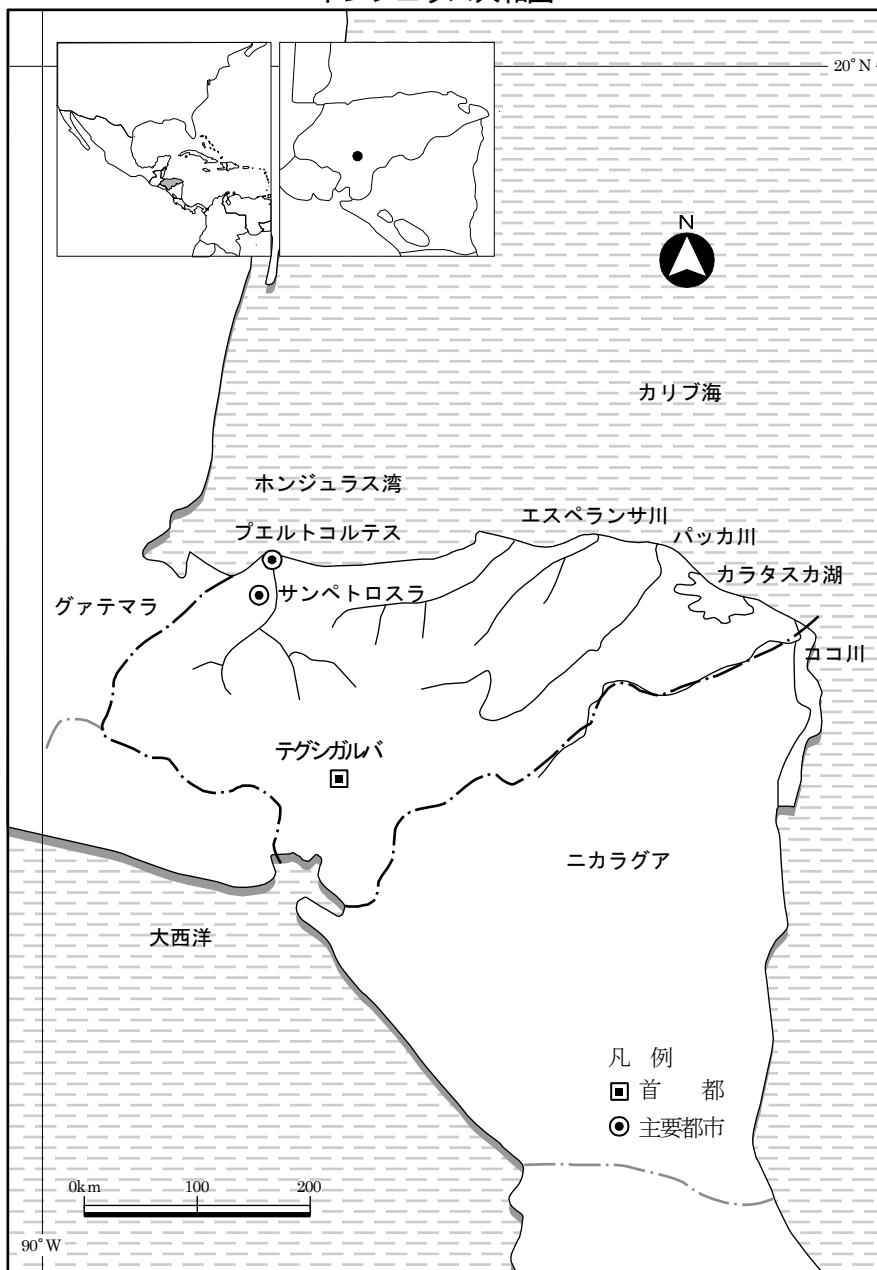


## ホンジュラス共和国



## (一般指標)

国 名 (英 名)	ホンジュラス共和国 (HND : Republic of Honduras)
国 土 面 積 万 ha	1,121 (本州本島の約半分)
人 口 万人	791.2 人口密度 70.3人／km <sup>2</sup> (2012年)
首 都 名 (英名)	テグシガルバ (Tegucigalpa) 標高1,004m
首 都 人 口 万人	99.0 (2009年)
主 要 言 語	スペイン語 (公用語)、ガリフナ語、先住民の言語
宗 教	カトリック87.2%、プロテスタント福音派10.5%
国連加盟年月	1945年12月
通 貨 单 位	レンピーラ 1米ドル=20.43 (2013年7月)
国民総所得：GNI 億米ドル	142 (2010年)
一人当たりGNI 米ドル	1,870 (2010年)
主要産業	農業 (バナナ、コーヒー等)、製造業、観光業
日本から輸出 億円	98.6 (2011年) 車輛、タイヤ類、一般機械他
日本 の 輸 入 億円	48.5 (2011年) コーヒー豆76.3%、衣類等
土 地 利 用 万ha	耕 地 143 (12.8%) (2009年現在)
	森 林 531 (47.5%) (2009年現在)
	牧場・牧草地 176 (15.7%) (2009年現在)
度 量 衡	メートル法、スペインの古い単位も使用されている。
祝 祭 日	1月1日元日、3月～4月頃聖週間、4月14日アメリカ大陸の日、5月1日メーデー、9月1日国旗の日、15日独立記念日、10月3日フランシスコ・モラサン將軍誕生日、12月民族の日、21日軍隊の日、12月25日 クリスマス
気 候	北緯 15°に位置し国土の大半が熱帯気候 Af・Aw であるが、内陸部の高原地帯は5～7月と9～10月と2度雨季があり温暖夏雨気候 Cw。カリブ海沿岸は気温も高く降雨量も多い。 首都テグシガルバ (1月 19.5°C、7月 22.3°C、年降水量 1,621mm)。

(森林指標)

(森林面積)

森林面積 (2010)	千 ha	5,192
森林率	%	46.0
森林変動率 (2005-2010)	%	-2.2

(森林蓄積)

森林蓄積(2010)	百万 m <sup>3</sup>	629
ha 当たり森林蓄積	m <sup>3</sup>	121

(人工林面積)

人工林面積 (2010)	千 ha	—
森林面積に対する割合	%	—

(森林所有者)

公的機関	%	62.0
民間	%	38.0

(炭素蓄積)

炭素蓄積 (2010)	百万トン	330
年平均炭素蓄積変化 (2005-2010)	千トン/年	-

### (森林・林業行政組織)

次の 3 つの政府機関が森林及び生物多様性に関与している。

- ・森林・保護地域・野生動植物保全国家研究所 (ICF)

なお、ICF は「国家森林管理・ホンジュラス林業開発公社 (AFE-COHDEFOR)」の機能の多くを受けついだもの。

- ・天然資源・環境省 (SERNA)
- ・農業・牧畜省 (SAG)

近年の最も重要な出来事は森林行政が SAG から財政的にも行政的にも独立したことである。ICF は 2008 年に布告 No.98-2007 により大統領府の従属機関として設置されたものであり、森林、保護地域及び野生動植物の保全に関する国家政策を実施する権限がある。次の権限も含まれる。

- ・森林資源の管理に関しコミュニティー委員会の設置と運営を支援
- ・政府の資金補助を通じて森林管理及び植林プログラムの支援
- ・2010 年から 20130 年までの国家森林プログラムの実施

### (森林・林業政策)

2007 年に施行された森林法 No.98 は国有林の保全と地域による森林管理を支援する条項、例えば植林に対する技術支援と補助金の交付などを導入した。それにもかかわらず、森林に関する法的条項はほとんどなく、違法活動が持続的森林管理の普及にとって重大な障害となっている。

国家森林政策に明記されている長期ビジョン (2002 年~2025 年) によれば、経済開発に貢献する森林分野の役割は次のとおりである。森林資源と生物多様性が効率的に管理・保全されることにより、各種サービスの生産量と生産性を増し、森林被覆率が増加し、荒廃地が復旧し、森林の基本的な 3 機能 (経済、社会、環境) による利益が生じることである。

地方政府は 2007 年森林法及び 2009 年市町村法により森林、保護地域管理の責任を増すこととなった。国有林と私有林では責任は限られたものであるが、地域共有林においてはその活動が持続的開発に関する限り、権限は地方に完全に委譲されている。

### (森林の現況)

FRA2010によれば、ホンジュラスの森林面積は2010年現在519万haであり、国土面積の46%が森林である。森林面積のうち天然林は46万ha（森林の9%）に過ぎない。1990年から2010年までの森林面積の減少は295万haであり、年間平均14.8万ha、率では1.8%減少してきている。これはアメリカでは最も高い減少率となっている。森林減少は東部地域熱帯広葉樹林で最もよく顕著である。その原因は過去においてはバナナ植栽のための開発であり、現在では小農民による土地の囲い込みが大きな原因である。彼らは荒廃した土地を最後には大規模農家や農業企業に売却する。森林荒廃は湿生広葉樹林にも広まっている。その原因は主に小規模な違法伐採によるものである。ホンジュラスのマツ林は度重なる山火事に関連している。火事は更新を助長するが、度重なる火事は荒廃につながる。

ホンジュラスの地形は、東部は低地帯で起伏はほとんどなく極めて緩やかであるが、中部から西部にかけては山岳地帯で起伏がはげしい。我が国の地形によく似て平野は少なく、わずかに南北の海岸地域にあるのみである。垂直的にみると、国土の65%は600～2,500mの山岳地帯で、その中でも1,000～1,500mの地帯が多い。しかしながら、環太平洋火山帯がエルサルバドルから太平洋を通ってニカラグアへ抜けているため火山はみられない。

地質は、古生代から第4紀まであり、山岳地帯の起伏の大きいところでは、岩質はその位置によって入り乱れており、急勾配が多いことから深い土壌層ができにくい状態にある。これに対し、起伏の極めて少ない東部および北部地域の地層は深い。しかし、地層は深いが必ずしも肥沃でないため、広葉樹の天然林が破壊されるとマツが侵入してくる。

ホンジュラスの森林植生は、このような地況と気象によって、大別するとマツ林と広葉樹林（熱帯降雨林）に分けられる。これらの分布および特徴は次のとおりである。

① マツ林: ホンジュラスの中央部および西部の山岳地帯、ならびに東部のニカラグア国境に接するモスキーティア（Mosquitia）地方に分布している。林相はサバナ地帯の疎林から立木度の高い林分までさまざまである。また、マツ林といつても広葉樹（*Quercus* spp.）を混交したものから純林のものまである。

生育するマツ属は、*Pinus caribaea*（海拔100～400m）、*P. oocarpa*（海拔700～1,500m）、*P. pseudostrobus*（海拔1,400～2,800m）である。

マツ林の資源量は正確に把握されたものはないが、国家林業開発公社のプロット調査によると、蓄積が ha 当り最高で 160m<sup>3</sup>、最低で 30m<sup>3</sup>、平均で 70m<sup>3</sup>となっており、生長量が ha 当り最高で 20m<sup>3</sup>、最低で 3m<sup>3</sup>、平均で 7m<sup>3</sup>となっている。

② 広葉樹林：東部地方の西経 84 度 30 分から 86 度までのカリブ海沿岸から、ニカラグア国境にかけての一帯、および北部海岸地方に分布している。また、中部以西の山岳林地帯にも部分的に分布している。

生育している有用樹種は、マホガニー (*Swietenia mahagoni*)、セドロ (*Cedrela odorata*) クルミ類 (*Juglans* spp.) である。

資源量については、正確に把握されたものはないが、ha 当り平均 200m<sup>3</sup>といわれている。総蓄積は約 10 億 m<sup>3</sup>といわれているが、調査精度ははつきりしていない。

ホンジュラスの森林を構成する樹種のうち有用樹種についてみると、次の樹種があげられる。

- ・ *Ocotea* spp. クスノキ科
- ・ *Andira inermis* (Guacamayo) ..... マメ科
- ・ *Sympomia globulifera* ..... オトギリソウ科
- ・ *Ochroma lagopus* (Balsa) ..... パンヤ科
- ・ *Zanthoxylum belisense* (Cedoro espino) ..... ミカン科
- ・ *Cedrela odorata* (Cedro) ..... センダン科
- ・ *Ceiba pentandra* (Ceiba) ..... センダン科
- ・ *Quararibea fieldii* (Coco mama) ..... パンヤ科
- ・ *Hymenaea courbaril* (Guapinol) ..... マメ科
- ・ *Cecropia insignis* (Guarumo) ..... クワ科
- ・ *Terminalia lucida* (Guayabo) ..... シクンシ科
- ・ *Ficus* spp. (Higo) ..... クワ科
- ・ *Jacaranda copaia* (Jacaranda) ..... ノウゼンカズラ科
- ・ *Cordia alliodora* (Laurel) ..... ムラサキ科
- ・ *Simarouba glauca* (Negrito) ..... ニガキ科
- ・ *Juglans olanchana* (Nogal) ..... クルミ科
- ・ *Pinus oocarpa* ..... マツ科
- ・ *Pinus caribaea* ..... マツ科
- ・ *Hieronima oblonga* (Rosita) ..... トウダイグサ科
- ・ *Virola koschnyi* (Sangre) ..... ニクズク科
- ・ *Calophyllum brasiliense* (Santa maria) ..... オトギリソウ科

注：( ) 内は地方名である。

### (人工造林)

ホンジュラスでは天然のマツ林が広範に分布していたため、人工造林はあまり行われなかった。2000年以降のデータに基づき概算すると人工林は48千haである。ほとんどの人工林は民有林であり、主な樹種は固有のマツである。また、*Gliricidia sepium*, *Leucaena* spp., *Gmelina arborea*、ユーカリ類はアグロフォレストリーの主要な樹種である。そしてもう一つ重要な樹種はチークである。

ホンジュラスで確認されている樹種は332あり、そのうち25種のみが経済的に重要である。特に、*Pinus caribaeba* (*pino costanero*)と*Pinus oocarpa* (*pino ocote*)が最も重要である。また、広葉樹の中で重要な造林樹種は次のものである。

- *Dialium guianensis* (andiroba)
- *Vochysia guatemalensis* (san juan)
- *Brosimum alicastrum* (ramon breadnut)
- *Virola koschnyi* (palo de sangre)
- *Terminalia Amazonia* (cumbillo)
- *Swietenia macrophylla* (mahogany)
- *Carapa guianensis* (macho)
- *Cedrela odorata* (cedro)
- *Tabebuia rosea* (apamate)
- *Colophyllum brasiliensis* (santa maria)
- *Cordia alliodora* (laurel)
- *Ceiba pentandra* (ceiba)

### (天然林施業)

ホンジュラスの天然林施業は、マツ林の利用経緯に達した林木を対象として択伐によって行われている。更新は、下層植生の状態が天然稚樹の発生に適していることから、もっぱら天然下種更新によっている。択伐作業として体系化されてはいないが、一種の漸伐作業もしくは傘伐作業ということができる。

保育については、林床植生の草丈が比較的低いこともあって、下刈は行われていない。更新樹は過密状態に発生するので、密度管理のための除伐、間伐が行われている。このように、天然林施業の条件に比較的恵まれているのにもかかわらず、伐採跡地の

林分内容は必ずしも良好ではない。これは、頻発する森林火災、虫害によるもので、森林部による調査では、毎年マツ林の20～50%が森林火災に見舞われ、成林途上の稚幼樹が被害を受けている。また、虫害は穿孔虫によるもので、被害が慢性化している。

広葉樹林（熱帯雨林）については、資源量も正確に把握されておらず、施業法も確立されていない。

#### （林産業）

ホンジュラスの2010年の丸太生産量は9.1百万m<sup>3</sup>であり、そのうち8.7百万m<sup>3</sup>は薪炭材生産となっている（FAO）。2009年のマツ用材生産量は75万m<sup>3</sup>、広葉樹は2万m<sup>3</sup>に過ぎない（ITTO 2011）。2009年の製材生産量は34.9万m<sup>3</sup>である。

薪炭材生産は最も経済的に重要な非林産物品であり、その70%がナラ材などの広葉樹材である。

稼働中の製材工場は、約120工場といわれている。製材工場の規模は全般に小さく、約8割が丸鋸を使用している。しかしながら、少数の大規模工場はリモートコントロール装置を有し、最新の機械や人工乾燥装置を備えているなど近代化は進んでいる。合板の生産は、マツ類合板および広葉樹合板である。

ホンジュラスの木材産業で特筆すべきものに松脂の生産がある。雇用の場の少ないマツ林地域に居住する住民にとって、松脂生産は大きな雇用の場を提供している。

原木生産量の推移と木材貿易量は以下の表のとおりである。

原木生産量の推移

単位：千 m<sup>3</sup>

年次	薪炭用	用 材				原木生産量 合計
		製材用、 単板用	パルプ用	その他	合計	
1985	8,404	836	—	18	854	9,258
1990	8,551	734	—	17	751	9,302
1995	8,622	481	—	6	487	9,109
2000	8,732	756	—	0	756	9,488
2006	8,668	873	—	0	873	9,541
2010	8,575	483	—	42	525	9,100

注：その他は杭、マッチ、ポスト、柵 など

木材貿易量 (2010)

単位：数量万 m<sup>3</sup>、金額万 ドル

製 品 名	輸 入		輸 出	
	数 量	金 額	数 量	金 額
丸 太	0.3	—	0.1	—
製 材	0.6	342.1	1.1	799.2
合 板	0.2	156.4	0.2	195.1

出典：ITTO, 2011, Status of Tropical Forest Management(2011)